

南海トラフ地震に備えよう

令和元年5月から気象庁による「南海トラフ地震臨時情報」の提供が開始されました。

この情報は、南海トラフの想定震源域内的一部分の領域で大規模地震が発生し、残りの領域で後発による大規模地震発生の可能性が高まったと評価された場合に発表されます。

地震は一度では終わらないかも
～時間差で起きる場合も～



地震発生後の防災対策の主な流れ

発生後

南海トラフの想定震源域西側でM6.8程度以上の地震が発生

気象庁が「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」を発表

有識者からなる「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催し起こった現象を評価

南海トラフの想定震源域西側で発生した地震
がM8以上であった場合

南海トラフの想定震源域西側で発生した地震
がM7以上であった場合(左記を除く)

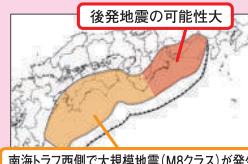
※ゆっくりと観測された場合は、それが収まると評価されるまで

2時間程度～1週間※

南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)

<発表時>

- 避難場所・避難経路を確認するなど、日頃からの地震への備えを再確認しましょう。
- 危険なところにできるだけ近づかないなど、安全な行動をとりましょう。



南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)

<発表時>

- 日頃からの地震への備えを再確認、できるだけ安全な行動をとるようにしましょう。(必要に応じて避難を自主的に実施)

- 日頃からの地震への備えを再確認しましょう。
(必要に応じて避難を自主的に実施)

- 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行いましょう。

- 南海トラフの想定震源域東側で先に地震が発生した場合は通常の地震と同様の対応となります。

※岐阜県「迫る地震に備えましょう」より作成

震度と揺れの状況

(気象庁震度階級関連解説表より作成)

震度 0	人は揺れを感じない。	震度 4	電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。	震度 6弱	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
震度 1	屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる。	震度 5弱	大半の人気が恐怖を感じ、物につかまりたいと感じる。	震度 6強	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
震度 2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	震度 5強	物につかまらないと歩くことが難しい。	震度 7	耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。				